

## 降圧剤

**Q7** 「レニベース<sup>®</sup>」という降圧剤を服用したところ、咳が出はじめ、2か月後も空咳が続いています。副作用の可能性はないでしょうか？ このまま服用していても大丈夫ですか？

**A7** 「レニベース<sup>®</sup>」はアンジオテンシン変換酵素阻害薬（ACE阻害薬）と呼ばれる種類のクスリです。ACE阻害薬はアンジオテンシン変換酵素を阻害することにより、血管を収縮させる物質、アンジオテンシンII（AII）の生成を抑えて血圧を下げます。また、心肥大を改善する効果もあります。有用性の高いクスリですが、特徴的な副作用に空咳があります。これは、ACE阻害薬がAIIの生成を抑えると同時に、血圧調節や炎症発現に関係する物質、ブラジキニン（BK）の分解も抑えてしまうためです。分解されずに蓄積したBKが、感覚神経の感受性を高め、空咳を誘発させると考えられています。

咳の頻度については、比較的多数を対象とした調査でも1.7%から25%までと報告に開きがありますが、10%程度とする報告が最も多く見受けられます。また、男性よりも女性

に多いとする報告が多いようです。

咳は持続性で、投与1週間から数か月以内に出現していますが、服用中止により速やかに消失します。

ACE阻害薬と同系のクスリにAII受容体遮断薬（ARB）（ニューロタン<sup>®</sup>、プロプレス<sup>®</sup>、ディオバン<sup>®</sup>、ミカルディス<sup>®</sup>、オルメテック<sup>®</sup>、イルベタン<sup>®</sup>）があります。ARBは、AIIが受容体に結合するのを妨げることでACE阻害薬と同じ効果を示しますが、BKの分解に関係する酵素を阻害しないので、ACE阻害薬で問題になる空咳の症状が出ません。ACE阻害薬で空咳がみられた患者さんでは、ARBが代替薬になります。

「レニベース<sup>®</sup>」の継続服用については、患者さん個々の状況を考慮して判断しますので、主治医とよく相談してください。

（原田清子／望星会 望星病院・薬剤師）